■生活場面Ⅲ「働く」に関する現行計画の内容（概要）

1. めざすべき姿と現状の評価・課題

<めざすべき姿>

障がいのある人が希望する様々なところで働き続けている

<課題>

- ・障がい者就労のさらなる拡大と就労定着に向け、全ての関係者が協力して取り組んでいく
- ・全国的にも低い水準で推移している福祉施設での工賃水準
- ・障がい者雇用率の段階的な引き上げが行われ、障がい者雇用の裾野が拡大している中、民間企業等での障がい理解の浸透や働き続けることができる職場環境づくり 等

2. 個別分野ごとの施策の方向性

(1) 実際に多くの障がい者が働いている

- ・雇用機会の拡大（就業訓練の実施、ハートフル税制の活用などによる特例子会社の設置促進）
- ・雇用機会の創出のため「行政の福祉化」の取組みを引き続き推進
- ・法定雇用率未達成事業主に対して障害者雇入れ計画等の提出を求め、職場実習機会の確保や障がい者雇用への理解促進など企業への働きかけ
- ・トライアル雇用、ジョブコーチ支援などの活用による障がい特性や個々の障がい者の適性、能力、適応性の理解の促進
- ・難病患者の雇用環境改善 等

(2) いろいろな場で障がい者が仕事をできる

- ・訓練や就職、職場定着、離職後の再チャレンジまで一貫した支援を行っていくための就労系サービス事業所の質の向上
- ・就労継続支援B型事業所の工賃向上、官公需に係る福祉施設の受注機会の拡大 等

(3) 障がい者が長く働き続けることができる

- ・障害者就業・生活支援センターにおける、就職から職場定着・再就職支援まで、働き続けるための支援の充実や就労サポートカードの活用による定着支援
- ・就労定着支援事業所の支援の質の向上と障がい者が利用しやすい就労支援施策を展開 等